

奈良県の地震

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

【奈良県地震概況】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の一覧】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図】

【地震一口メモ】

長期評価による地震発生確率値の更新について

「奈良県の地震」は、奈良地方気象台における地震調査の一環として県内の地震活動状況を的確に把握し、きめ細かい防災対策に資するため1989年1月より月1回発行しています。「奈良県の地震」は、上記の項目で構成し、適宜地震解説資料や用語解説等を掲載します。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体、及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

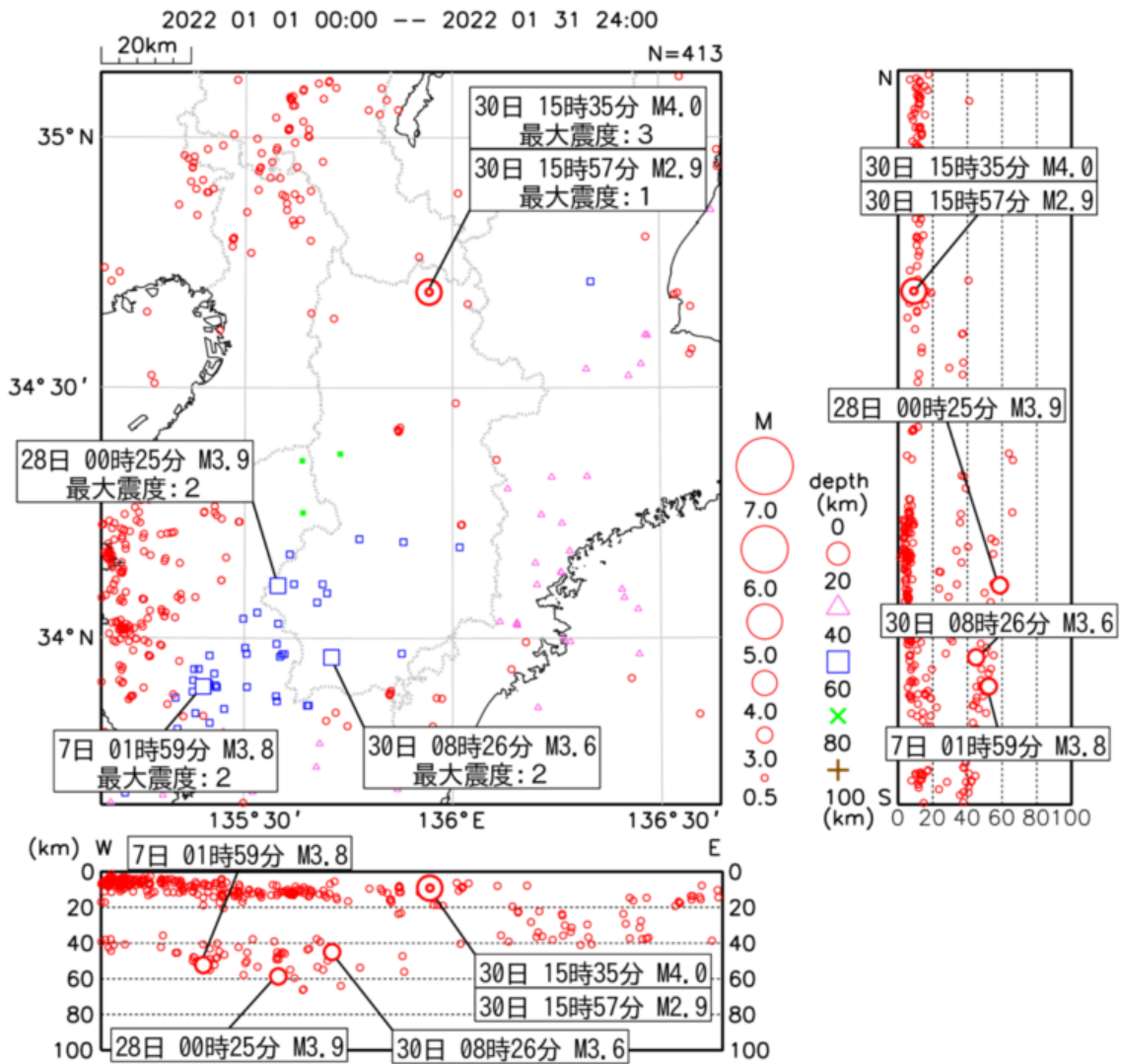
※この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

奈良地方気象台
2022年1月

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

地図範囲内に分布している震央の南北方向の断面図(右上)と、東西方向の断面図(左下)で、地震の垂直分布を表しています。これにより、マグニチュード(M)の大きさと深さによる地震発生状況が把握しやすくなります。



【奈良県地震概況】

7日 01時 59分 和歌山県南部の地震(深さ 52km、M3.8)により、十津川村・下北山村で震度2を観測したほか、和歌山県、大阪府、京都府、奈良県、兵庫県、三重県、香川県、徳島県で震度2～1を観測しました。

22日 01時 08分 日向灘の地震(深さ 45km、M6.6: 地図範囲外)により、奈良市・大和高田市・大和郡山市・天理市・御所市・葛城市・宇陀市・安堵町・川西町・三宅町・田原本町・高取町・広陵町・河合町・天川村で震度1を観測しました。また、大分県、宮崎県で震度5強を観測したほか、中部地方から九州地方にかけてと伊豆諸島の一部で震度5弱～1を観測しました。

28日 00時 25分 奈良県の地震(深さ 59km、M3.9)により、大和高田市・桜井市・御所市・葛城市・宇陀市・三宅町・高取町・広陵町・吉野町・御杖村・山添村・天川村・十津

川村・下北山村・川上村・東吉野村で震度1を観測したほか、和歌山県、三重県、京都府、滋賀県で震度2～1を観測しました。

30日08時26分 奈良県の地震（深さ45km、M3.6）により、五條市・吉野町・黒滝村・天川村・十津川村・下北山村で震度1を観測したほか、三重県、和歌山県で震度2～1を観測しました。

30日15時35分 奈良県の地震（深さ9km、M4.0）により、奈良市・宇陀市・三郷町・斑鳩町・山添村で震度2を観測したほか、東海・近畿地方で震度3～1を観測しました。

30日15時57分 奈良県の地震（深さ9km、M2.9）により、奈良市で震度1を観測したほか、京都府、三重県で震度1を観測しました。

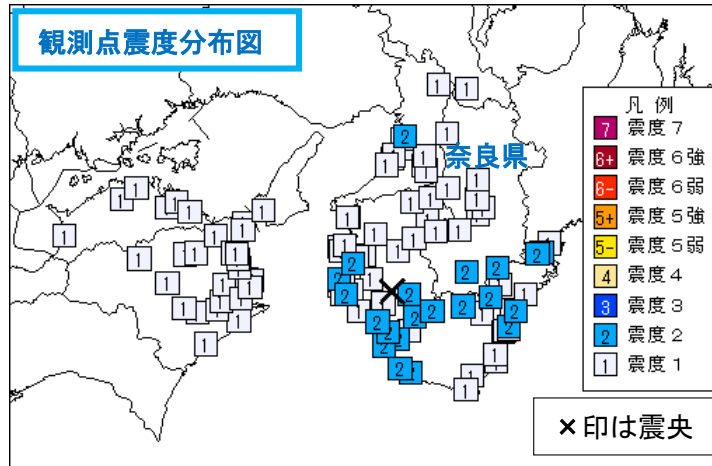
【奈良県で震度1以上を観測した地震の一覧】

震源時(年月日時分)	震央地名	北緯	東経	深さ(km)	M
各地の震度（奈良県内のみ記載）					
2022年01月07日01時59分	和歌山県南部	33° 54.1' N	135° 24.1' E	52km	M3.8
震度 2：十津川村小原*、下北山村寺垣内*					
震度 1：五條市大塔町辻堂*、五條市岡口*、三郷町勢野西*、吉野町上市*、黒滝村寺戸*、天川村洞川、天川村沢谷*、野迫川村北股*					
2022年01月22日01時08分	日向灘	32° 42.9' N	132° 04.3' E	45km	M6.6
震度 1：奈良市西紀寺町、奈良市二条大路南*、大和高田市大中*、大和郡山市北郡山町*、天理市川原城町*、御所市役所*、安堵町東安堵*、奈良川西町結崎*、三宅町伴堂*、田原本町役場*、高取町観覚寺*、広陵町南郷*、河合町池部*、天川村洞川、葛城市柿本*、葛城市長尾*、宇陀市大宇陀迫間*					
2022年01月28日00時25分	奈良県	34° 06.2' N	135° 34.8' E	59km	M3.9
震度 1：大和高田市大中*、桜井市初瀬、桜井市栗殿*、御所市役所*、山添村大西*、三宅町伴堂*、御杖村菅野*、高取町観覚寺*、広陵町南郷*、吉野町上市*、天川村洞川、十津川村小原*、下北山村寺垣内*、奈良川上村迫*、東吉野村小川*、葛城市柿本*、宇陀市菟田野松井*、宇陀市榛原下井足*、宇陀市大宇陀迫間*					
2022年01月30日08時26分	奈良県	33° 57.7' N	135° 42.5' E	45km	M3.6
震度 1：五條市大塔町辻堂*、吉野町上市*、黒滝村寺戸*、天川村洞川、天川村沢谷*、十津川村小原*、下北山村寺垣内*					
2022年01月30日15時35分	奈良県	34° 41.4' N	135° 56.6' E	9km	M4.0
震度 2：奈良市月ヶ瀬尾山*、奈良市二条大路南*、奈良市都祁白石町*、山添村大西*、三郷町勢野西*、斑鳩町法隆寺西*、宇陀市室生大野*、宇陀市大宇陀迫間*					
震度 1：奈良市西紀寺町、大和高田市野口*、大和高田市大中*、大和郡山市北郡山町*、天理市川原城町*、橿原市八木町*、桜井市初瀬、桜井市栗殿*、御所市役所*、生駒市東新町*、香芝市本町*、平群町吉新*、安堵町東安堵*、奈良川西町結崎*、三宅町伴堂*、田原本町役場*、曾爾村今井*、御杖村菅野*、高取町観覚寺*、明日香村岡*、上牧町上牧*、王寺町王寺*、広陵町南郷*、河合町池部*、葛城市柿本*、葛城市長尾*、宇陀市菟田野松井*、宇陀市榛原下井足*					
2022年01月30日15時57分	奈良県	34° 41.5' N	135° 56.6' E	9km	M2.9
震度 1：奈良市月ヶ瀬尾山*、奈良市二条大路南*					

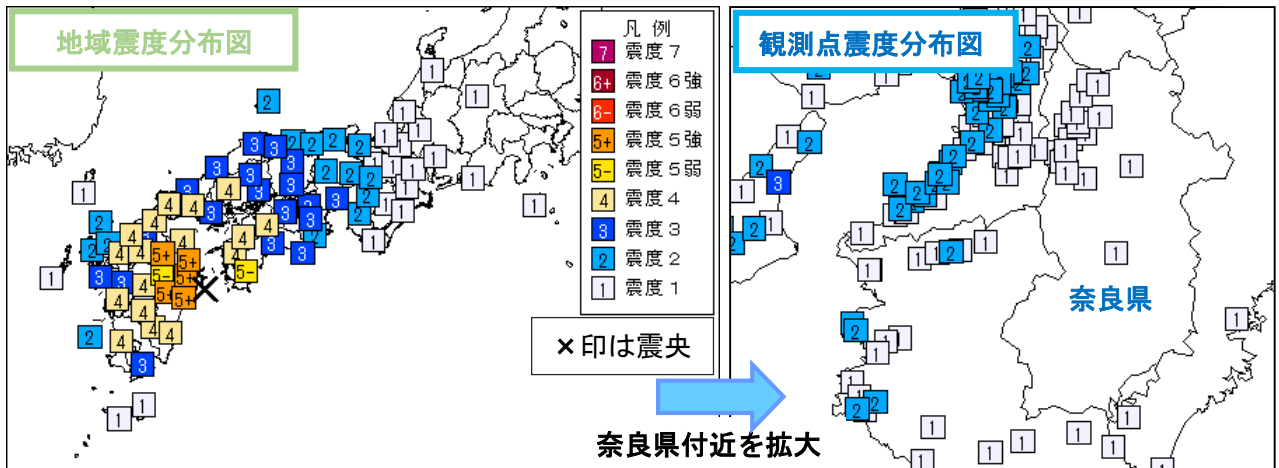
*印は地方公共団体等の震度観測点です。

【奈良県で震度1以上を観測した地震の震度分布図】

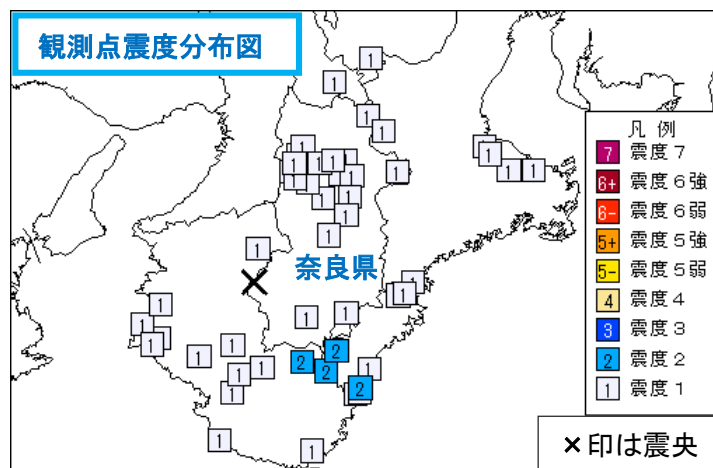
2022年01月07日01時59分和歌山県南部 33° 54.1' N 135° 24.1' E 52km M3.8



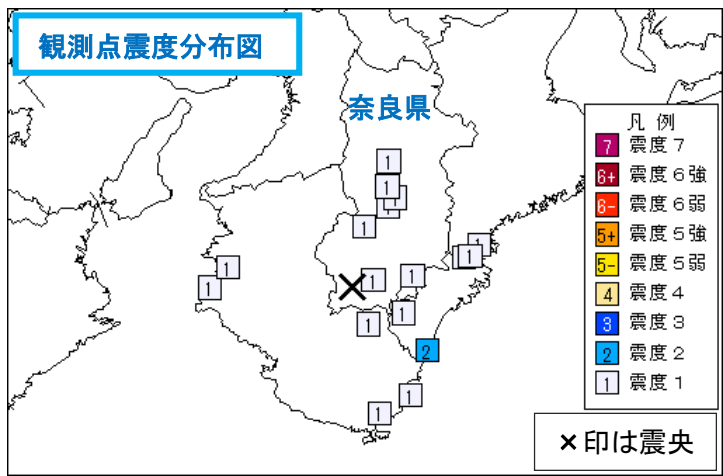
2022年01月22日01時08分日向灘 32° 42.9' N 132° 04.3' E 45km M6.6



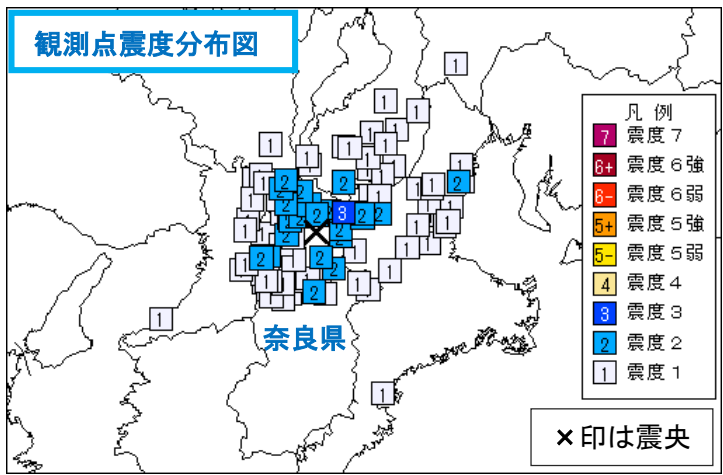
2022年01月28日00時25分奈良県 34° 06.2' N 135° 34.8' E 59km M3.9



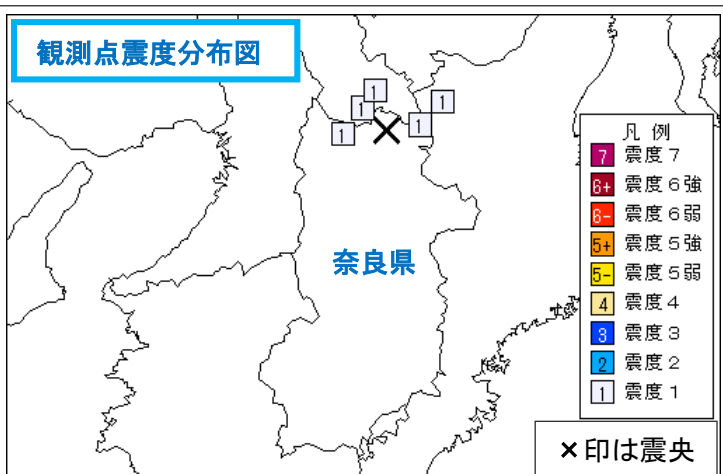
2022年01月30日08時26分 奈良県 33° 57.7' N 135° 42.5' E 45km M3.6



2022年01月30日15時35分 奈良県 34° 41.4' N 135° 56.6' E 9km M4.0



2022年01月30日15時57分 奈良県 34° 41.5' N 135° 56.6' E 9km M2.9



【地震一口メモ】

～長期評価による地震発生確率値の更新について～

政府の地震調査研究推進本部は主要な活断層や海溝型地震の活動間隔、次の地震の発生可能性（場所、規模及び発生確率）等々を評価し、随時公表しています。令和4年1月1日を基準日として再計算が行われ公表されましたので、以下のとおり奈良県に關係の深い領域を抜粋して紹介します。

これまでの再計算でも同様ですが、今回の再計算では時間経過により南海トラフ地震の長期評価の「最新発生時期」が今年の「75.0年前」から「76.0年前」に、「地震後経過率」が今年の0.85から0.86に上がった変更がありました。

主要活断層帯の長期評価の概要（算定基準日 令和4年（2022年）1月1日）

断層帯名	長期評価で予想した地震規模(マグニチュード)	我が国の主な活断層における相対的評価(ランク) ^(注1)	地震発生確率(30年以内)	地震後経過率	平均活動間隔
					最新活動時期
奈良盆地東縁断層帯	7.4程度	S*	ほぼ0～5%	0.2-2.2	約5,000年 約11,000年前以後、 約1,200年前以前
中央構造線断層帯(金剛山地東縁区間)	6.8程度	Z	ほぼ0%	0.2-0.3	約6,000-7,600年 1世紀以後、3世紀以前
中央構造線断層帯(五条谷区間)	7.3程度	X	不明	不明	不明 約2,200年前以後、 7世紀以前

南海トラフ地震の長期評価の概要（算定基準日 令和4年（2022年）1月1日）

領域	長期評価で予想した地震規模(マグニチュード)	我が国の海溝型地震の相対的評価(ランク) ^(注1)	地震発生確率(30年以内)	地震後経過率	平均発生間隔
					最新発生時期
南海トラフ	8～9クラス	Ⅲ*	70～80%	0.86	次回までの標準的な値 ^(注2) 88.2年 76.0年前

注1 活断層における今後30年以内の地震発生確率が3%以上を「Sランク」、0.1～3%未満を「Aランク」、0.1%未満を「Zランク」、不明（すぐに地震が起きることが否定できない）を「Xランク」と表記している。海溝型地震における今後30年以内の地震発生確率が26%以上を「Ⅲランク」、3～26%未満を「Ⅱランク」、3%未満を「Ⅰランク」と表記している。地震後経過率が0.7以上については、ランクに*を付記している。

注2 南海トラフ地震については過去に起きた大地震の震源域の広がりには多様性があり、現在のところ、これらの複雑な発生過程を説明するモデルは確立されていない。次の大地震が発生するまでの期間が、前の地震の規模に比例するという時間予測モデルが成立していると仮定した場合、昭和東南海・南海地震の規模は、安政東海・南海地震より小さいので、室津港（高知県）の隆起量をもとに次の地震までの発生間隔を求めると、88.2年となる。

参考：地震調査研究推進本部（令和4年1月13日公表）

https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/chousa_22jan_kakuritsu_index/

本紙は奈良地方気象台のホームページでも過去6年間程度分掲載しています。
URL：<https://www.data.jma.go.jp/nara/jisin/jisin.htm>

